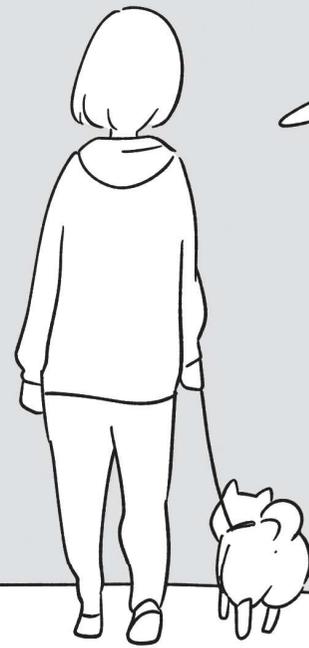






この世界は
やさしさにあふれている
それはいつまでも変わらない

犬たちはいつも全力で、
私たちにそのことを
教えてくれようとしている



まえがき

犬と人間が出会って約2万年。

「地球上で最も親しい動物」ともいえる犬たちは、私たちとどんな関わり方をしているのか。

「犬との思い出」について知りたいという気持ちから、現在犬を飼っている方、かつて犬を飼っていたことがある方、そして飼ったことはないけれど犬が大好きな方など、さまざまな愛犬家の方さんにお話を伺いました。

寄せられたエピソードの中には、心温まるほのぼのとしたお話だけでなく、飼い主の人生を大きく変えてくれた犬、傷ついた心を癒やしてくれた犬、バラバラになりかけた家族の絆を再び結び直してくれた犬など、私たちの想像を超える深い役割を果たしたお話が数多くあり、その一つひとつに驚かされました。

そして、たとえばどんな家庭で飼われていても、犬たちは一様に、私たちに家族の大切さと、生きることを楽しむ気持ちを教えてくれているのだと、あらためて

知ることができました。

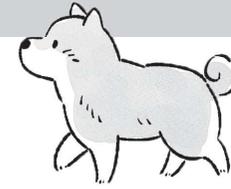
犬と過ごす日々は、なぜこれほどまでに私たちの人生に深い影響を与えるのでしょうか。

それはただ「犬が可愛いから」「犬の行動が面白いから」というだけではなく、時間が経てば経つほど「犬の愛情の大きさに気づかされるから」だと私は考えます。

私たちが犬と触れ合っている時間は、犬との暮らしのほんのごく一部です。私たちが愛犬のことをまったく考えていない間も、愛犬は飼い主にまっすぐな愛情を注ぎ続けています。

日々の忙しさの中で私たちが忘れかけている、ひたむきで、まっすぐな愛。それを本書からあらためて感じていただき、皆様の幸福に変えてくださることを願ってやみません。

三浦健太

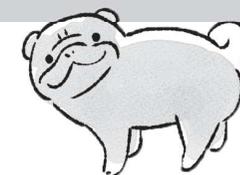
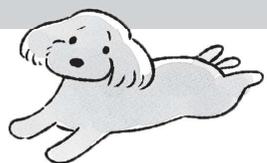


CONTENTS



STORY 10	STORY 9	STORY 8	STORY 7	STORY 6	STORY 5	STORY 4	STORY 3	STORY 2	STORY 1		
君が好きだから ——グッチ——	母である証明 ——タロとジロ——	思い出のソファ ——ハル——	やさしい落とし物 ——オマエ——	君を待つ犬 ——レン——	もう過去はいらない ——モモ——	行かないで ——リン——	生きているだけで自慢 ——ベル——	幸福な瞬間 ——リロ——	妻が通った散歩道 ——フィロス——	まえがき	プロローグ
102	94	84	74	64	54	44	34	24	14	8	2





	STORY 20	STORY 19	STORY 18	STORY 17	STORY 16		STORY 15	STORY 14	STORY 13	STORY 12	STORY 11
あとがき……………	犬の記憶……………	言えなかった気持ち……………	幸せを呼ぶ言葉……………	嫌われる勇気……………	2人と1匹……………		犬との約束……………	孤独からの1センチ……………	やさしい嘘……………	誰にも取られたくない……………	後悔する意味……………
	——リュウ——	——ハナ——	——ラッキー——	——カール——	——ピート——		——ビッキー——	——トッポ——	——コタロー——	——アキ——	——レオン——
220	215	206	194	184	174		154	144	134	124	112

※本書は、一部を除き、2017年10月に刊行された『犬が伝えたかったこと』の内容をマンガとして再構成したものです。紹介しているエピソードは、すべて実際の出来事をもとに構成していますが、登場人物の名前やシチュエーションは、読みやすさや構成の都合上、変更を加えています。



犬は毎日

「ずっと同じ」

がいい。

犬と人間との大きな違い。

それは「くらべる」という行為によくあらわれます。

自分と他人、自社と他社、うちの子どもとよその子ども。どっちが得か、どっちが早いか、どっちが価値があるか。人間はなんでも「くらべる」ことが大好きです。

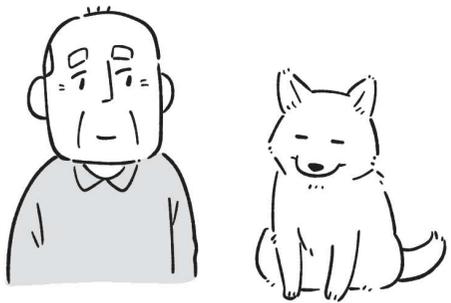
それだけではなく朝と夜、昨日と今日、今年と来年、といった時間の比較もします。

ですから同じことをくり返していると、人間の場合は飽きてきます。まったく変化のない環境に居続ければ、退屈を通りこして苦痛にもなってくるでしょう。

それは人類の進歩のためには必要なことでしよう。

「くらべる」ことができるからこそ、人間は夢や希望を持ち、新しい行動を起こそうという気持ちを生み出せるからです。

しかし、犬は違います。犬はそもそも「くらべる」ことをしません。その環境が快適でさえあればそれでよく、できるだけ変化しないことが望ましいのです。



同じ時間に起きる。同じものを食べる。同じコースを散歩する。同じように飼い主に甘える。そんな毎日をどれだけくり返しても飽きません。

むしろあまり変化のない日々は、犬に安心感を与えます。

犬は季節の移り変わりや、飼い主さんのちょっとした変化を感じられるだけで十分幸せなのです。

犬と泊まれるホテルや特別なテーマパークに連れていくことも、豪華なごちそうを用意することも、きれいな夕日を見せてあげることも必要ありません。

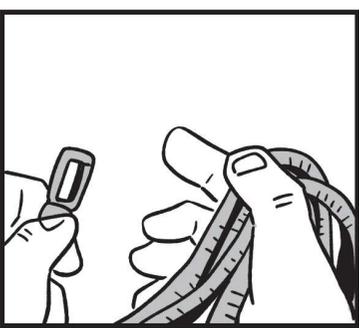
犬が求めているのはいつもと変わらない環境、そして飼い主さんの安定した愛情、それだけです。

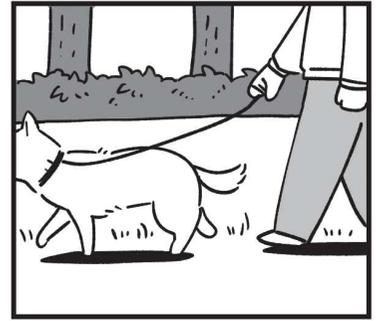
「変わらぬ愛情で接する」と言葉で言うのは簡単でしょう。

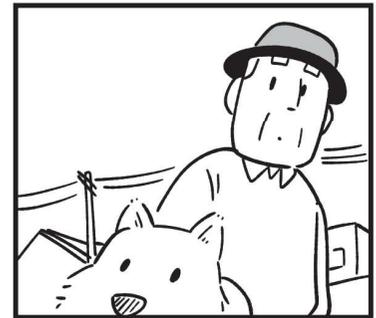
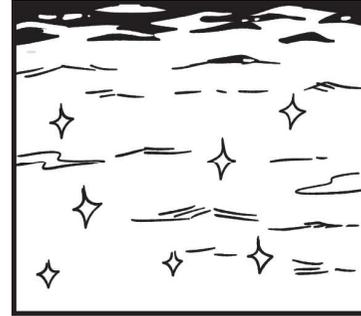
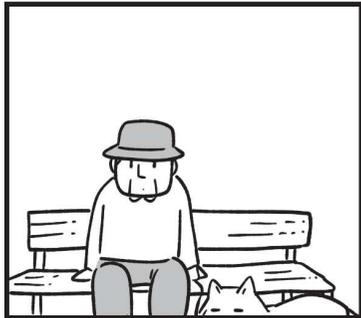
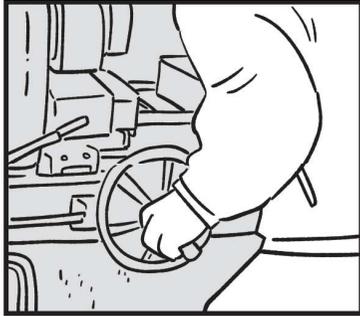
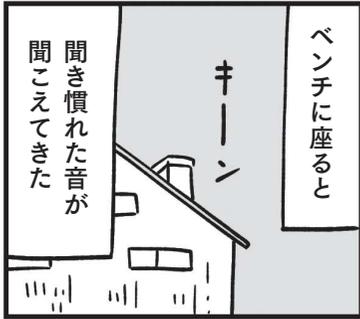
日々の安定した生活に飽きてしまいやすい私たち人間が、飼いはじめたころと同じような愛情を、ずっと愛犬に対して持ち続けるのは意外と難しいことかもしれません。

犬がいつもそうしているように、飼い主さんも毎朝、愛犬を新鮮な気持ちで見せてあげてください。

「妻が通った散歩道」 14歳の雑種(♂)を飼う 65歳男性より









犬は想像以上に
成長が早く
老いるのも早い。

犬の成長は早く、生後1年で人間でいう12歳ほどになります。その後は、1年で4歳から6歳ほど歳を取るといわれています。10歳にもなれば、人間の60歳から70歳。人間であれば定年を迎えます。成長が思ったよりも早いということは、老化も思ったより早いということ。私たちにとっての10年間を、犬はたった2年で過ごしてしまうことになるのです。

居間でくつろぐ犬を見て、（最近、少し元気がなくなってきたかな）と思っている間にも、猛スピードで老化が進んでいます。今までは軽く飛び越えていた道路のみぞの前で立ち止まるようになります。階段の登り降りを嫌がるようになります。ボールを追わなくなります。あまり吠えなくなります。食欲が落ちてきます。名前を呼んでもすぐには来なくなります。

どうすればそんな愛犬の老化にいち早く気づいてあげられるのでしょうか。

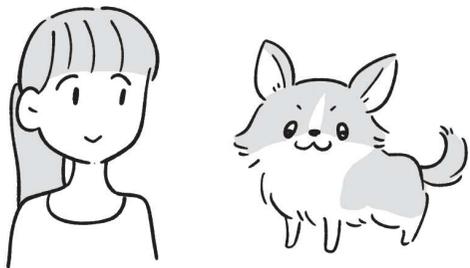
犬のわかりやすい老化は、目と耳にあらわれます。

目の場合、一般的に多いのは「白内障」という目の表面に白い膜ができる病気で、だんだん白い部分が増えていき、最終的には失明するようになります。また、耳が聞こえにくくなる犬もいます。犬が、呼んでもすぐに来なくなったり、指示を出しても知らんぷりするのは、頑固になっているわけではなく、単純に老化で耳が遠くなっている可能性があります。どの犬も、目と耳はひとしく老化していきます。ところが不思議なことに、目と耳が両方同時にダメになる、というケースは非常にまれです。

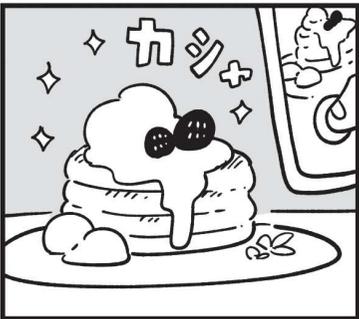
個体差があつて、目が悪くなる犬と、耳が悪くなる犬がいるのです。そして、目が悪くなってきた犬の耳はたいして良く、耳が悪くなってきた犬の目もまた、たいして良いようです。

ですから飼い主は犬になにかを教えるとき、言葉で伝えるだけではなく、ボディランゲージも取り入れておきたいもの。そうすれば、外出するとき、その場を離れるときなどに、犬の安全を確保しやすくなります。

自分の老化を自覚できない犬にとっての、心の支えにもなるでしょう。



「幸福な瞬間」 7歳のチワワ(♀)を飼う 27歳女性より



「充実している自分」を
アピールすることに
夢中でした



でもホントは
そんなに
楽しくない

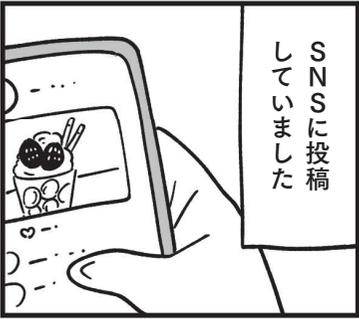


私はヒマさえ
あれば

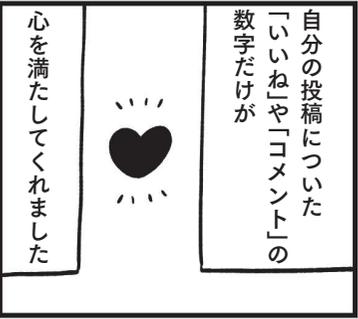
幸せそうな
瞬間をきり取り



私がホントに
ほしいのは…

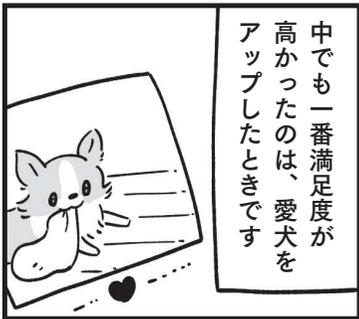


SNSに投稿
していました



自分の投稿についた
「いいね」や「コメント」の
数字だけが

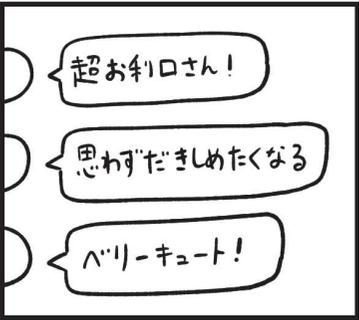
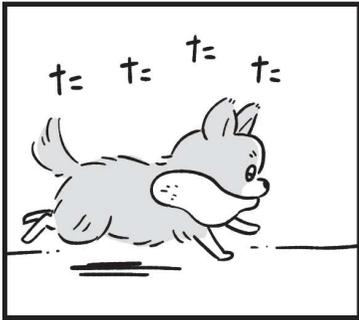
心を満たしてくれました



中でも一番満足度が
高かったのは、愛犬を
アップしたときです



夜遅くに
マンションに
帰ってくると



チワワのリロが
私のくつ下をくわえて
出迎えてくれます



たくさんコメントに
快感を覚えて
しまいました

